平成24年2月1日
2月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
愛知教育大学附属養護学校校長
小川　正光氏
この人に聞く …… 2
ホスピス研究会OKAZAKI代表
金田亜可根氏
羅針盤 …… 2
竜美丘小校長
板倉　登
ふれあい …… 3
矢作中学校
福田　忠大
特　集 …… 4
変わりゆく学校図書館
図書館教育の今…
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー … 8
加藤善八郎氏
10回忌記念式
この本を …… 8

教育随想

デンマークで愛される「座りにくい」椅子

愛知教育大学附属養護学校
校長　小川　正光　氏

近年、我が国でもデンマークの家具のよさが知られるようになってきました。椅子（いす）に対しては「座りやすい」という誉（ほ）め言葉が決まって用いられますが、デンマーク人が愛し、国内のどこでも見られるアルネ・ヤコブセン設計のアント（蟻）・チェアのよさは、実は「座りにくい」ことにあります。

新しい家具は、建物に合わせて建築家が設計し、その後一般でも使われるようになるものですが、この椅子は、最初、製薬会社の社員食堂で使われました。小さな丸テーブルに椅子を四方から入れるために、前足が引っかからないよう一本にし、後足二本の、計三本足にしています。座面も、極限の大きさに切りつめています。その結果、窮屈で安定性が悪い、実に「座りにくい」椅子になったわけですが、効率優先の社員食堂には、これ以上の椅子はなかったのです。試作段階では、合板で座面と背もたれを一体的に成型するたびにひび割れを生じました。その割れを隠すため、黒く塗った姿が蟻に似ていたので愛称が付きました。

いつもは使わずに部屋の隅に並べ、脇役のインテリアとして使うことが多い椅子ですが、退屈な会議が予想されるときには主役としてセットされます。このようにデンマークは、それぞれの個性を大切にし、優れた点を引き出し、発揮させるのがうまい国だと思います。どんなときでも弱い者、小さい者の立場に立ち、その権利を全力で守る福祉国家ですが、それは同情や共感からでなく、人間は、本来弱く、小さい存在と感じているからで、弱く、小さいことの価値を知っているからです。その結果、世界で最も住みやすい国のひとつになりました。「座りにくい」椅子を作ることに、これほど力を入れる国はなく、また、大切にする国はないのです。

（おがわ　まさみつ）

この人に聞く

いのちと医療と市民を結ぶ

ホスピス研究会OKAZAKI代表
金田亜可根　氏

「私たちって死ぬことに対して覚悟がないと思うんですね。」

静かな口調ながら、金田さんの言葉は、深く鋭く心に響く。

十二年前、四十四歳の友人をがんで亡くした。治療の術がなくなって、ホスピスも勧められたが、余命の告知を迷い、本人も家族も苦しむ間に、痛みのなかで逝ってしまった。

「このとき、病院って多くの人が亡くなる場所なのに、家族も彼自身も、こんなに気持ちが苦しいのはどうしてなのかって思ったんです。」

その思いが元となり、最初に取り組んだのが、イギリスのホスピスを題材にした写真展。そこに写った患者たちは皆、穏やかな顔をしていて、こういう顔で死んでいける場所があるんだ、みんなにもホスピスのことを知って考えてもらいたいと思い企画したそうだ。以後、二〇〇〇年に市民・患者の視点から「いのちと医療」を考え、情報発信しようと「ホスピス研究会OKAZAKI」を立ち上げた。情報冊子の作成・模擬患者体験・電話相談・講座・展覧会など多彩な活動を続けている。

「二人に一人ががんになる時代。特別な病気ではないけれど、告知・再発・転移と常に治療法の選択を迫られる。がんは、その人の生き方とともに語られる病だと思います。治療を受けながら命を落とすのか、人として命を終えるのか。がんになると、最期までずっと病院で治療して、闘うことばかりが脚光を浴びてしまう。でも、ありがとうとかさようならとか、最期に会話ができるような穏やかな時間のなかで、命を終えられるところも必要だと思うんです。」

ホスピスというと、治療も何もすることがない末期がん患者の最期の場と言われもするが、そうではない。岡崎にも愛知病院に緩和ケア病棟ができて三年になるが、時間に追われる一般病棟と違い、微妙なさじ加減が、必要な痛みの緩和などの医療行為も含めて、患者や家族の意思を尊重し、限られた時間をその人らしく生活するための場となっている。

「命の終わりに医療をどこまで受けるかは、一人一人の答えが必要で、他の誰が決めることでもありません。だから、私たちに分かる言葉で語られた情報で、一人一人が自分で考えられる場を作りたいと思うのです。」

会員は、患者登録の六十名を含め、現在百五十名。患者と医療関係者と市民が平等な立場で医療を語る会は、全国的にも稀だという。また二か月に一度、金田さんの自宅で開く患者会は四年目を迎え、三十回を超えた。

「手作りの料理でもてなして、楽しい時間を過ごしてもらうんです。みなさん、また頑張れるって言ってくださって。緩和ケア病棟で症状のコントロールをしながら、自転車で通ってみえる方もあるんですよ。」

また、現在は名古屋芸術大学の非常勤講師として「医療と美術」の講座をもち、学生たちに命と医療、がん患者について伝えている。金田さんが、学生一人一人の気持ちを丁寧に追って授業を組み立てていく姿勢は、静かなエネルギーに満ちている。

「ワークショップで患者さんと向き合い、信頼関係ができると、学生たちは、がん患者さんを特別視しなくなるんです。若い人たちにとっても、命や医療のことを考えるのは特別なことじゃないって思いますね。」

そのなかで生まれた学生たちの美術作品は、愛知病院にも置かれ、潤いを与えている。がんに対する理解を深め、支えあう市民の輪は、これからも確実に広まっていくことだろう。

（氏　名　かねだ　あかね
生年月日　昭和二十八年六月五日
住　所　康生町在住）

羅針盤

ホットでほっとな学校づくり

竜美丘小校長
板倉　登

「ちょっと学校へ寄らせてもらってもいいかな」先日、私の尊敬する前田勝洋先生から突然こんな電話が入った。近くに来ているので、私を思い出してくださり、話をしたいと言われる。感激至極である。

先生は、『教師と子どもが育つ教室』など数多くの著書があり、各学校の研究発表会でも講師を務められるなど多岐にわたってご活躍されている。かれこれ十年ほど前、全国社会科研究大会でご一緒させていただいて以来、懇意にしてくださり、本校にも毎年現職研修の講師としてご指導を仰いでいる。その先生のお言葉に「ホットでほっとな学校づくり」がある。私はこの言葉が好きで、職員にも四月初めの職員会で伝えている。

創り出した価値

矢作中学校
福田　忠大

昨年度は、「自治的能力を育む」を研究論文のテーマに据え、学級会を基盤とした合唱コンクールの実践に取り組んだ。自分たちでアイデアを出し合い、活動を構築していく学級会は、自治的能力を育むうえで必要不可欠なものである。しかし、活動に対する生徒個々の意欲の差が課題として残った。そしてそれを、「その子なりの頑張り方として認めよう」という考えに落ち着いたが、私としては何かもやもやしたものが残った。

今年度、三年生の合唱コンクールでも、学級会を軸とした取組を行った。四月、生徒たちは指示待ちで、自ら行動しようとするパワーが感じられなかった。私は、行事を見据えながら学級会を繰り返し、活動させた。体育大会の応援合戦の学級会でも係を作り分担したが、担任の私にせかされ、直前にやっと動き始めるという感じであった。

合唱コンクールの学級会では、「当番制日替わりパートリーダー」「パート別音取りリーダー」「朝練習の位置づけ」「練習時間を作り出すための具体的な行動指針」など、高い意識を感じさせる意見が次々と出てきた。生徒たちの熱意が感じられ、これからの活動に大いに期待を抱かせる話し合いになった。

だが、個々の意欲の差はやはり生まれた。学級会で決まったはずの朝練習に、どうしても出てくることができないA男の理由は朝寝坊。一学期から、いくら注意しても改善しないA男の生活習慣である。一日のスタートに全員がそろわないため、男子のパート練習は、昼からの練習も気持ちが入らない日が続いた。

昨年度の実践に倣えば、今こそ出番とばかりに、私が「A男なりに頑張っているんだ」と話したであろう。しかし、ここは学級会で生徒たちが見せた熱意を信じることにした。朝練習は、生徒たち自身が学級会で考えを出し合って決めた活動である。自治的能力を育むのであれば、ここは生徒たちの気持ちを信じるべきではないか。焦りも不安もあったが、待ちに徹することにした。

ほどなく、A男が朝練習に出てくるようになった。しかも、朝から爽やかな顔をしている。何か私の知らないところで動きがあったのだろうと、学級代表のB男に聞いてみた。「A男にモーニングコールしてます。毎朝五分おきに。男子みんなで当番を決めてやってます」実は、A男を朝練習に参加させるために、男子だけではあったが、ミニ学級会を開いたらしい。そこで決まったのが、「A男モーニングコール作戦」だった。

全員がそろって朝練習をやれるようになり、がらりと雰囲気が変わった。一回歌い終えるごとに、すぐに誰かが集合をかけ、ミニ学級会が始まる。みんなで頭を寄せ合い、次はどうやって歌うかについて話し合うのだ。学級会から生まれた自治的能力が、活動のなかで実践的な力となって生きてきたことに、喜びを感じずにはいられなかった。

本番は力及ばず、入賞は果たせなかった。しかし、その日の最後に、B男が言った言葉が忘れられない。「最優秀を取れなかった悔しさもある。だけど、ここに来るまで、いろんなことがあって、それでもみんなで話し合ってやってきて……。だから、それ以上に、もうみんなで、このメンバーで歌うことはないってことが寂しくて泣ける。」

自分たちで創り出し、活動してきた。自分たちで話し合い、時間をかけてハードルを越えてきた。だからこそ、やってきたことに価値がある。

「ホット」は実践・挑戦・頑張り、「ほっと」は優しさ・仲間の和・温かさ。両方を兼ね備える教師でありたい。そして、学校は、「ちょっと無理して頑張るところ」に共感する。

「ホット」な気持ちばかりが先走ると、人間関係が悪くなり、ついていけない子が出てしまったり、ときにはいじめや不登校などの問題行動に発展したりすることもある。逆に「ほっと」な気持ちばかりを優先すると、水は低きに流れるが如く教師と子供とのなれ合い、成長のない学校になってしまう。

「これで自分の学校は伸びていくか」「子供たちを鍛えることができるか」「この学校経営で大丈夫か」「地域の人に信頼される学校になっているか」「保護者が通わせたい、職員が勤めたい学校であるか」等々、常に自問自答し目標をもつことを心がけている。

学校運営の要諦は、時代が変わっても、不易の部分が多い。今一度、先達の教育実践から謙虚に学び、日々の教育に邁進したいと思う。

「また、寄らしてもらうわ」手を振りながら帰られた校長室には、「ホットでほっと」な温かいお言葉がいつまでも残っていた。「よし、ちょっと無理して頑張ろう」、そんな気持ちにさせてくれるから不思議である。

変わりゆく学校図書館

図書館教育の今……

▲大型絵本を使った一年生による幼稚園児への読み聞かせ（愛宕小）

昭和五十三年度から継続する根石小の読書指導に代表されるように、岡崎市では、「読み聞かせ」や「朝の読書」活動が以前から盛んに行われている。小学校では、現在四十三校でボランティアによる読み聞かせが行われ、保護者や地域の方による読み聞かせボランティアは、小学校の図書館教育を支えており、中学校においても、その姿が見られるようになってきた。読み聞かせは、大型絵本やエプロンシアター、パネルシアターなどいろいろな方法で行われ、子供たちの読書への興味を喚起している。

図書館の管理・運営において、最近、変化が見られるようになってきた。学校図書館では、図書のデータベース化などパソコンにより管理する学校が増えてきた。それにより図書の受入れの手間が省かれただけでなく、子供たちが本を探すことも容易になり、図書の貸出・返却もスムーズになった。さらに、子供たちの利用状況や図書の貸出状況なども一目で分かるようになり、利用指導にも役立っている。また、床にじゅうたんを敷いた低学年用図書館や絵本を集めた部屋を設置したり、図書館内に多彩なコーナーを作ったりするなど、より子供たちが本に親しめる環境づくりもされている。

平成二十二年度から学校図書館支援員が市内小中学校に派遣され、今年度は二十校に配置されている。大変な作業を要する図書館運営や図書館の環境整備に役立っている。また、教員補助者に支援を受けている学校もあり、図書館のスムーズな運営の一助となっている。

今後、子供たちの健やかな成長のため、学校図書館の果たすべき役割はたいへん大きい。それを支える環境整備が進みつつある。

▲エプロンシアターを使った読み聞かせ（根石小）

▲ぬいぐるみを使った読み聞かせ（井田小）

▲ボランティアによる読み聞かせ（南中）

進むデジタル化

▲バーコードによる読取り　（福岡小）

今年から福岡小学校の図書室にもパソコンが入りました。今までの図書室よりも、とても新しく見えました。パソコンの使い方を、先生が丁寧に教えてくださいました。図書当番をしていても、今まで以上にみんなが来てくれてうれしくなります。友達も、借りるときバーコードリーダーで読み取るだけなので、前よりも簡単になったと言っています。本を借りる子が増えました。私も図書委員長としてもっとがんばろうと思います。

（福岡小　6年女子）

◇図書のデータベース化◇

○現在のデータベース化校

小学校　16校

中学校　7校

○使用ソフト

「情報BOX」　16校

「ライブマンジュニア」　4校　他3校

多彩な図書館

▲じゅうたん敷きの低学年用図書館（連尺小）

▲家康コーナーがある図書館（大樹寺小）

▲英語コーナーがある図書館（本宿小）

図書館を支える

六ツ美北中学校の図書館は、普段でも一日五十人前後、「七夕祭り」「読書週間」などの催しのときには、百名を超える生徒たちが利用し、活気に満ちています。

本校図書館の特色は、データ化されていることと、OBを含む二十人もの図書ボランティアの方が協力し、支えていてくれること です。データ化によって、生徒が自らパソコンを使用して本の検索ができ、受入れ業務の軽減に役立っています。また、図書ボランティアの方々にはデータ化導入の折にはもちろん、季節ごとの装飾、本のカバーがけ、読み聞かせなど、様々なご協力をいただき、図書館にとっても、生徒たちにとっても、なくてはならない存在です。

中学校生活において、多くの本に出会い、幅広い視野と思考能力、ゆとりの心と豊かな想像力を育む手助けができるような快適な空間の図書館を目指しています。

（六ツ美北中　学校図書館支援員）

○学校図書館支援員配置校……二十校

根石小・男川小・美合小・緑丘小・六名小・連尺小
福岡小・本宿小・大門小・矢作西小・六ツ美南部小
城南小・上地小・六ツ美西部小・豊富小・夏山小
美川中・竜南中・六ツ美北中・北中

○教員補助者による図書館支援……九校

お知らせ

●教育最新情報

○平成二十四年度岡崎市教員免許状更新講習

平成二十四年度も、岡崎市による独自の教員免許状更新講習を行う。

夏期休業中に、市内で、無料で引き続き行う。岡崎の教育に携わる講師によって行い、岡崎の教育の現状をふまえた実践的な研修内容とする。

◆受講対象者

平成二十四年度の受講対象者は次の生年月日（平成26年3月31日時点の満年齢）で、①～④に該当する者

昭和33年4月2日～34年4月1日（満55歳）

昭和43年4月2日～44年4月1日（満45歳）

昭和53年4月2日～54年4月1日（満35歳）

①岡崎市立学校・幼稚園に勤務する本務職員

②岡崎市立学校・幼稚園に勤務する常勤・非常勤講師

③岡崎市立学校・幼稚園に勤務しようとする者

④その他、岡崎市教育委員会が必要と認める者

各学校で受講対象者について確実に把握するとともに、受講対象者自らがしっかりと自覚し、確実に更新講習受講の申請をしていきたい。申請書の提出は四月中に行う。

◆講習期日と会場

①必修講習

平成24年8月3日(金)　4日(土)

②選択講習

平成24年8月7日(火)　8日(水)　9日(木)

会場は、総合学習センター等。

◆受講対象者説明会

平成二十四年度の受講対象者に対して、説明会を次のように行う。

期日　平成24年3月2日(金)

会場　総合学習センター小ホール

○来年度研究発表校

来年度は、市委嘱の研究発表校が三校、自主発表校が二校である。県へき地教育研究にかかわり一校行われ、全国授業公開を一校が行う。

◆市委嘱研究発表

・恵田小学校　十月十日（水）

「自ら進んで学び続ける子の育成　～家庭と連携した学習ノートの活用を通して～」

・大樹寺小学校　十月十七日（水）

「郷土に誇りをもって、新しい未来を切り拓く大樹寺っ子の育成　～家康学習を通して～」

・新香山中学校　十一月十四日（水）

「環境を見つめ、考え、働きかける生徒の育成　―環境学習を基盤としたＥＳＤの展開―」

◆自主研究発表

・生平小学校二月二十五日（月）

「自然に働きかけ、感じ追究し続ける子供の育成　―ふるさと学習の創造と展開―」

※紙上発表

・竜海中学校十一月二十日（火）

「わかる学習指導」第十次研究　「自ら学び、表出する生徒の育成　―教科学習を中心に―」

◆東海北陸地区へき地教育研究大会愛知大会

・下山小学校　十月二十六日（金）

「確かな学力を身につけ、表現力豊かな下山っ子　～スピーチ、読書・ことばタイムと国語科の授業を中心に『伝え合う力』を培う～」

※附属岡崎小は五月二十九日（火）、附属岡崎中は十月二日（火）、附属特別支援学校は十一月九日（金）に行われる。附属岡崎小は、秋の授業協議会が十一月二十一日（水）に行われる。

◆全国授業公開（英語活動）

・本宿小学校　十一月二日（金）

○第四十五回愛知県教育研究論文

岡崎市からは、個人二名が入賞した。

個人の部

佳作

梅園小学校教諭　小田喜代美

「伝統・文化を尊重し　郷土に誇りを抱く子ども　―五年『家康公の三根五菜みそ汁いただきます』の実践を通して―」

竜南中学校教諭　森田淳一

「持続可能な社会の実現を目指し、学びを問い合い、自己の責任を考える社会科の授業　～三年『存続？廃止？美合・病院線』の実践を通して～」

○第五十五回小中学校書き初め展

一月二十（金）から二十二日（日）まで、岡崎市美術館で行われた。

各学校学級代表二名の作品が展示された。

▲書き初め展 展示の様子

今年度より、各学校で取り組んだ硬筆書写の作品の展示、岡崎の偉人にかかわる言葉を選び作品にした「おかざきの心の

醸成」のコーナーも設置した。

●表　彰

◆第29回全国小・中学生作品コンクール
国語部門
文部科学大臣奨励賞
梅園小六年　水越　葉凪
顧問審査員特別賞
矢作東小一年　野村　奈未

◆第三回全国花王おそうじ絵日記コンクール
優秀賞
矢作東小二年　鶴田　悠仁

◆アジア国際子ども映画祭（全国）
奨励賞　生平小六年
杉山拓哉　南　壮馬
中田琴理　本間結莉愛

◆第五十五回全国ＪＡ共済小・中学生書道コンクール
半紙の部
銅賞　南中二年　西原　希美

◆２０１１ぎふ・関全国子ども俳句コンクール
俳句の部
奨励賞
矢作北中一年　大河内優太

◆愛知県中学生バスケットボール新人大会（男子）
優勝　六ツ美北中学校

◆愛知県中学校バドミントン大会
女子団体
三位　六ツ美北中学校

◆第七回明日の風文芸賞岡崎（県）
俳句ジュニアの部
大賞　東海中三年　富田　純平
エッセイジュニアの部
県教育委員会賞
美合小五年　鈴木　雅也
詩ジュニアの部
県教育委員会賞
美合小四年　附柴　航

◆県ＪＡ共済小・中学生書道コンクール
条幅の部
銀賞
矢作北中二年　高木　琴美
半紙の部
金賞（県知事賞）
南中二年　西原　希美
銀賞
矢作北中三年　鈴木佐緒莉

◆第57回青少年読書感想文県コンクール
愛知県知事賞
根石小六年　水野菜々子
竜海中二年　三浦　舞香
愛知県教育委員会賞
六ツ美北中二年　石川　瑞紀
毎日新聞社奨励賞
井田小四年　大久保　力
※以上四名は全国審査へ
愛知県学校図書館研究会賞
南中三年　大森　悠貴
優良賞
愛宕小一年　増山　晴香
矢作北小一年　太田　順
六ツ美西部小一年　杉本　尋
竜美丘小二年　鈴木　天翔
大門小三年　下川　聖史
矢作南小三年　丹下　夏摘
小豆坂小三年　大橋　希海
岡崎小五年　大竹奈菜美
井田小五年　繁原ひなの
井田小五年　石川　響己
甲山中一年　中根　佳恩
南中二年　大竹　泉実
額田中三年　ニコル角谷泉

◆第62回岡崎市民駅伝競走大会
男子の部
優勝　南中学Ａ
二位　美川中学校Ａ
三位　甲山中学校Ａ
四位　東海中学校Ａ
五位　葵中学校Ａ
六位　矢作中学校Ａ
女子の部
優勝　竜海中学校Ａ
二位　南中学校Ａ
三位　東海中学校Ａ
四位　矢作中学校Ａ
五位　六ツ美北中学校Ａ
六位　葵中学校Ａ

●ハートピアだより

ケイドロは力なり

子供の遊びのなかに「ケイドロ」がある。警察役が泥棒役をすべて捕まえれば終了となる遊びである。

この遊びに必要な条件は、①ある程度の人数がいること②参加者の数名が逃亡・追跡可能な気力・体力を備えていること③ある程度走り回れる空間があること④雨が降ってないことなどである。

昨年度ハートピアに通所をした男子中学生がいる。彼は、前年度の二学期始業式から不登校になった。原因は、夏休みの宿題ができなかったことと聞く。気力が失せ、寝ている日々から復調し、通所となった。ほとんど休まず通所した。数か月後には、月に数回学校にも顔を出した。後半は教室にも入れるようになり、本年度、学校に復帰し、休まず通学している。

学校の代休で久しぶりに本所を訪問した彼が、今、学年でトップクラスの短距離走者になっていると話してくれた。

通所中、彼を鍛えた場所は近くの坂を利用した小公園で、公園全体の高低差は階段六十段くらいある。ここでケイドロを行ったのである。雨でなければ、子供たちは一気にそこを上ったり下ったりを繰り返し、遊びを楽しむ。

十二月、子ども美博の造形教室に参加した。午後、日頃遊んでいる公園の約四倍の美博前の広場でケイドロをやった。一人一人の目を見張るほどの脚力の増進が見られ、「ケイドロが力になった」という彼の話に合点がいった。

最後に子供の提案で、滑り台のあたりで横一直線に並んだ。「ドン」の一声で市内を一望できる展望台まで一気に駆け上がった。

▲展望台へ一直線

フォトヒストリー 岡崎の教育

加藤善八郎氏 10回忌記念式 （昭和二年）

写真提供：奥殿小学校

（十回忌記念）加藤善八郎翁建設校舎ノ一部（奥殿校）

この写真は、奥殿小学校で加藤善八郎氏の十回忌を行ったときのものである。加藤善八郎氏は、明治五年の学制発布のとき、私財を投じ今の奥殿小学校を創立した人物である。また、明治三十四年にも、新校地・校舎を寄与された。そのときの逸話がある。

「善八郎は広い土地を耕し大きな建物を作り始めたとき、村人に聞かれ『これから広い桑畑と蚕を飼うんだ』と言った。できあがると善八郎は村人を集めて、『これを奥殿小学校にしてください』と言ったという」善八郎の謙虚で慎ましやかな性格がうかがえる。現在も住民の心には加藤善八郎氏への感謝の気持ちが深く受け継がれ、奥殿小学校では、今でも児童が年二回、お墓の掃除などを行っている。

このように、学校に寄せられる地域の方からの温かい支援はどの学区にもあり、学校は地域に常に感謝の気持ちをもち続けていきたい。

・カット　新香山中　金澤一幸

オアシス

終わりよければすべてよし。人の一生をこんな言葉でくくるのは、あまりにも乱暴かもしれないが、命の終わりに心安らかな時間を過ごせるのは、やはり幸せなことだ。やわらかな明かりのともる金田さんのご自宅で、静かに語られる生と死の話を聞きながら、がんで逝った父の最期を思った。そして、死の一瞬までどう生きるのか、私自身の答えについても。

新しい年になってから早一か月。年の初めに立てた目標に向けて頑張る子、目標を見失いそうになってしまっている子、様々である。学期はじめや年のはじめは、気分を一新しやすい。子供たちにとっては自分が変わるチャンスである。逃げていく月日に逃げられないよう、チャンスを生かせるようなサポートをして、四月を迎えさせたい。

静かだった図書館が、子供たちが集う場に変わってきた。新刊に目を輝かせる子、調べ学習に必要な本を支援員とともに探す子、ボランティアの大型絵本の読み聞かせに釘付けの子、パソコンで貸出・返却を楽しみに並ぶ子。十人十色の活動の拠点となる。図書館は「学び」の場であり、図書館教育を支えるのは、そうした子供の心の「学び」を支える教師であると感じる。

水道の水があまりにも冷たく、思わず身震いしてしまった早朝。それでも、春は確実に近づいてきている。積み重なった落ち葉を突き破ってフキノトウが顔を出した。校庭ではウメのつぼみを発見した。いったい植物は、どこで春が近いことを感じているのだろうか。もうすぐ立春。春の足音に敏感になれる自分でありたい。

この本を

＊**決断できない日本**　ケビン・メア
文藝春秋　￥819

＊**新・堕落論**　石原慎太郎
新潮社　￥756

＊**歴史を動かした徳川十五代の妻たち**　安藤優一郎
青春出版社　￥650

＊**本願寺と天下人の50年戦争**　武田　鏡村
学習研究社　￥798

＊**逆境を生き抜く力**　我喜屋　優
WAVE出版　￥1,470

筆者は，沖縄県の興南高校が甲子園で春夏連覇を達成したときの監督であり，同校の理事長，校長も兼任している。単なる野球人ではない。高校生や社会人を野球の頂点に導き，さらに，母校の教育者として頂点にある人物だ。徹底した生活指導をベースに心を育てること，そして，さまざまな逆境を乗り越えるためにこれまでの前例を打ち壊す行動力をもつこと，この２つの重要性を説いている。チームづくり，学級づくりに役立つ一冊だ。

大門小　都筑　祐一